

あいさい 通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

木曾川探検

8月10日（水）
午前9時半頃から岐阜県羽島市の木曾川で、国土交通省木曾川下流河川事務所が主催する水生生物による水質調査が実施され、猛暑にかかわらず近隣50人程の子供達が参加しました。



安全に関する注意の後、網とバケツを持って木曾川河口堰（馬飼大橋）下流の河川敷に降り、葦原が広がる川辺の浅瀬に住む水生生物を探しました。30分程探索した後、熱中症防止のため一度休憩し、再度30分程調査しました。そして、探した水生生物は、一ヶ所に集められ、どんな生物が居たか鑑定しました。大量に捕えられたのは、カワニナ、スジエビであり、カニ類やヤゴ類などもたくさん居ました。

水生生物による水質調査は、環境省などが推奨している方法であり、29種類の水生生物を指標



生物と定め、どの生物が多く見られたかを調べることにより、水の汚れ程度を把握するものです。この日の調査では、水質階級Ⅰ（綺麗な水）の指標生物であるヒラタカゲロウ、水質階級Ⅱ（やや綺麗な水）のオオシマトビケラ、ヒラタドロムシ類、コオニヤンマ、カワニナ類が見つけれ、それぞれの数から、木曾川の水は水質階級Ⅱ（やや綺麗な水）と判定されました。さらに、ウナギ、アユ、モロコその他、カワアナゴ、ギギ、アユカケといった珍しい魚も見つかりました。調査後、すべての生物は川に戻されました（現地は漁業規制区域となっています）が、左写真、上はナマズの仲間のギギで、捕まえようとするとギギッと鳴く魚です。下はカジカの仲間のアユカケです。（2頁、観光協会主催の漁業体験掲載）

木曾川漁業体験



＜三和町の木曾川での地引網 と 地引網で捕えられたクロダイ＞

8月7日（日）午後から、愛西市観光協会主催事業で今年の第1回“木曾川漁業体験”が、愛西市三和町の木曾川で、夏空の下、家族11組40人に参加いただき開催されました。

今年の漁業体験では、最初に、葛木港から木曾川観光船に3班に分乗して乗船してもらいました。この夏を代表するような猛暑日でしたが、木曾川を渡る風は心地よかったと好評でした。そして、港に戻り、港の川底にあった仕掛けを引き上げました。仕掛けには、テナガエビが10匹以上、ハゼの仲間であるヌマチチブが1匹獲れていました。

それから、車で三和町の安泉寺に移動し、大潮の干潮で砂浜が広がる木曾川河川敷に移動しました。そして、みんなで川に入って楽しく網を引きました。残念ながら、魚は1匹しか獲れませんでした。網にかかった大きなクロダイの姿（上写真）に参加したみなさんは大喜びでした。

最後に安泉寺へ戻り、境内でスイカ割り大会をし、また、クロダイやエビなど獲れた魚をじゃんけんによりみんなで分け、また、お土産としてシジミ一袋を持ち帰っていただきました。



＜木曾川観光船（中央）、仕掛けで獲れたヌマチチブ（左）とテナガエビ（右）＞

あれから40年

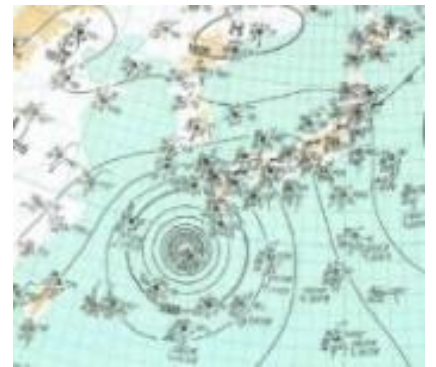


千引町の奥津神社社殿は墳丘上に建っています。海部郡内の古墳として、奥津社古墳（円墳）とあま市の二ッ寺神明社古墳（前方後円墳）が知られていますが、奥津社古墳は4世紀中頃の径25mの円墳で、神社には3面の三角縁神獣鏡が伝わっており、この古墳から出土したと考えられています。3面の鏡は、いずれも舶載の三角縁神獣鏡で、張氏作銘四神四獣鏡・波文帯竜虎鏡・日月銘獣文帯四神四獣鏡です。舶載とは、中国・朝鮮などで製作されわが国に伝えられたもので、三角縁神獣鏡とは、鏡の縁が三角形を呈し、その内側に神像や獣形の文様が配されている鏡のことです。

現在これらの鏡（県文化財指定）は熱田神宮宝物館におさめられていますが、これらの鏡には、ちょっと恐ろしいエピソードがあります。1976（昭和51）年に貴重な三角縁神獣鏡と判明し、その重要性を鑑みこれらの鏡が熱田神宮へ移されました。そして、その年の秋…。

この年9月4日に発生した台風17号は、9日に南西諸島を通過後、10日から12日朝にかけて九州の南西海上で停滞しました。台風が停滞し、また、前線が関東から四国付近に長期間停滞していたため、全国的に大雨となり、各地で土砂災害や洪水が発生しました。当地でも、9月8日夜10時20分に大雨洪水警報が発令され、10日に目比川堤防が決壊し、勝幡小学校区の全域に浸水被害が発生しました。地元では、大切な鏡を奪われた奥津神社の女神の祟りと噂されました。また、岐阜県の長良川上流で大雨が降ったため、12日に岐阜県安八町で堤防が決壊しました。あれから40年です。

なお、24年後の2000年9月12日には、同じような気象状況となり、台風14号に伴う東海豪雨が発生し、当地も大きな被害が出ています。　　<右図は1976年の天気図>



鵜戸川 釣り大会

7月31日（日）午前9時頃から、石田町の立田庁舎東に広がる鵜戸川を会場に、愛知県が主催する愛西市釣り大会が開催されました。定員を越える140人以上が参加し、約1時間の間に、優勝者は魚13匹を釣り上げ、最大は30cm以上の魚だったそうです。

ジリジリとした猛暑の日曜日、あまりの暑さで熱中症になりかけ、テントの中にすぐ避難した子もいましたが、半数以上の参加者が魚を釣り上げました。ただし、そのほとんどが外来種のブルーギルやブラックバスでした。また、亀も200匹以上が捕えられましたが、そのほとんども外来種のミシシippীアカミミカメだったそうです。釣り大会の集計結果を待つ間に講演会もあり、自然豊かに見える鵜戸川も、外来種が増え、本来の固有種がほとんど生息していないことがわかりました。



一番鉾 飛ぶ！



7月24日（日）、尾張津島天王祭が津島市の天王川公園と津島神社周辺で開催されました。

尾張津島天王祭は、たくさんの提灯で飾られた巻藁船が登場する前日の宵祭（23日・土）が有名ですが、絢爛豪華な能人形を乗せた車楽船が登場する朝祭が本祭です。

朝祭は、先頭の市江車に10人の鉾持ち衆が乗船し、鉾持ちが天王川に飛び込み、

泳いで天王川を渡り、津島神社まで走って拝殿前に布鉾を奉納するパフォーマンスが見所の一つです。

市江車は愛西市の東保町などのみなさんにより奉仕されています。今年は児（ちご）が二人搭乗したこと、置物が縁起の良い「東望朔」だったことが話題となりましたが、例年通り、鉾持ち衆がカッコ良く天王川に飛び込み、大きな水しぶきをあげると、観客から大きな拍手が贈られて祭が盛り上がりました。

今年の鉾持ち衆は、美男が集まりチームワークも良く、見事に祭事を演じていました。伝統的な祭礼とは、毎年毎年同じものですが、一つの仕草の結果によってその年の印象の残り方は大きく変わると思いました。今年は綺麗に実施されましたが、尾張津島天王祭は、今年の11月末にユネスコ世界無形文化遺産登録の審査があります。今後も彼らの活躍に期待大です。

尾張津島天王祭 神葭祭

8月1日（月）午後4時から津島市の天王川公園で神葭祭が開催されていました。尾張津島天王祭が終わった日（7月24日）の深夜、一年間神社の本殿で人々の厄の依代となっていた神葭が天王川に流されます（神葭放流神事）。しかし、明治時代末期に天王川が公園の丸池となって以降、神葭は流れずに神葭納め神事まで丸池に浮かんでいます。



神葭祭は、天王祭10日後に神葭を供養するもので、天王川公園の丸池上で、津島神社の神官が祝詞をあげ巫女が舞を奉納する古式の日本の美を見ることができました。

下大牧町の子どもザイレン

今年も愛西市の各地で子どもザイレン（祭礼）が行われました。今回は下大牧町の子どもザイレンを紹介しますが、今年では上組と下組それぞれで祭礼を行っていますが、今年では上組を見学させていただきました。上組では、尾張津島天王祭の一週間後あたりで日程が決定されます。今年7月31日（日）に行われました。夕方6時30分頃、木曽川堤防上に設置されたオシャトウ

（祠：写真）の前で太鼓が鳴らされ、人々が集まると祭りの開始です。少し離れた神明社まで子ども達がお参りに行き、戻ってくると提灯に火が灯されます。オシャトウにもお参りをし、その後花火が行われました。オシャトウには、子ども達が昼間に集合しワコモで作ったナマズ・橋・鳥居、ナスで作った馬が供えられ、その奥に津島神社の御札が置かれています。馬は子ども達の感性で作製されるようで、毎年形が違うそうです。御札とお供えは翌日朝木曽川に流されます。

日程やオシャトウのお供え・御札、木曽川にその御札・お供えを放流する行事などから、津島神社の神葎信仰の影響を色濃く受けた行事であることがわかります。大人の方々が協力し伝統を守る姿、また何よりも子ども達が楽しみながら行事を行っている姿が印象的でした。
[調査報告・写真提供：愛西市教育委員会]



猛暑の夏、納涼祭

8月6日（土）夕刻には佐屋・八開地区、7日（日）夕刻には佐織・立田地区で、それぞれ納涼祭や盆踊り大会が開催されていました。この内、佐屋地区では、年始に披露された“あいさいさん テーマソング”も盆踊り曲として演奏され、新しい振付で踊りが披露されていました。

また、7月31日（日）夕刻、名鉄勝幡駅と勝幡小学校周辺を会場に、勝幡コミュニティが主催する勝幡納涼祭が開催されていました。夕暮れに校庭や町内などに屋台が出店し、また、オカリナ演奏やバンド演奏（写真）などが街角ステージを盛り上げ、また、盆踊りの行列が商店街や校庭を練り歩きました。駅前では目玉イベントとしてマウンテンバイク日本チャンピオンの演技披露があり、その見事なパフォーマンスに観客から歓声と悲鳴が上がっていました。



～ 観光協会が関連する 今後の予定 ～

- 8月28日(日) 第3回 漁業体験(於:三和町付近の木曾川河川敷)
- 9月10日(土) 11日(日) 東海テレビこどもまつり 2016with ゆるキャラレジェンド
(於:名古屋市・吹上ホール)
- 9月30日(金) 木曾三川下流地区観光連携協議会 視察勉強会(於:弥富市)
- 10月 1日(土) 愛知県観光交流サミット in つしま (於:津島市文化会館)
- 10月 2日(日) 名鉄ハイキング沿線コース(勝幡駅～津島駅)
- 10月 9日(日) 愛西市 秋まつり
(於:西保町・須依町 他)
- 10月 8日(土)・9日(日) かにえ町民祭り
- 10月15日(土) 16日(日) ご当地キャラ博 in 彦根
- 11月 5日(土)・6日(日)
愛西市文化祭+愛知県国民文化祭
- 11月 6日(日) 愛西市商工まつり



木曾三川下流地区観光連携協議会 視察勉強会

国土交通省木曾川下流河川事務所では、下記日程で視察勉強会を開催予定です。協議会は10時より開催され、午後からの視察勉強会(交流ツアー)は一般の人も参加可能です。

開催日 : 9月30日(金) 12:00～15:00

集合場所: 弥富市 総合社会教育センター・はなのき広場

視察場所: 交流ツアー(日本金魚市場、立田輪中人造堰樋、尾張大橋 他)

申込・問合先: 国土交通省木曾川下流河川事務所(TEL: 0594-24-5719(河川公園課))

V G 9月 定例会 の 予 定

集合時間: 9月18日(日) 9時～

集合場所: 愛西市文化会館

内 容: 2016年下半期の事業について

天王祭市江車 布鉾と紅白梅 展示中



7月29日(金)から8月30日(火)までの一ヶ月間、愛西市文化会館には、今年の尾張津島天王祭朝祭で市江車が津島神社に実際に奉納した布鉾と、天王祭で市江車の屋台上に飾られ、雷除け札に加工された紅白梅が展示されています。4頁で紹介した価値ある愛西市の文化財を皆さんに理解していただこうと、観光協会が津島神社からお借りして展示しています。

愛西市教育委員会では、尾張津島天王祭のユネスコ無形文化遺産登録を盛り上げるため、11月に開催する愛西市国民文化祭で市江車行事を題材とした作品を募集しています。実際に使用されていたモノを作品応募の参考にして下さい。